

# あいち農産物生産流通レポート

平成23年1月号

情報サロン		
・うどんに適した小麦新品種「東海103号」を普及します (農業総合試験場) .....		1
地域トピックス		
・『西尾の抹茶』のブランド化について (西三河農林水産事務所) .....		2
東日本情報		
・農業の6次産業化への取り組み (東京事務所) .....		3
西日本情報		
・元気印 将来の「あいちの茶」を背負う若者たち (園芸農産課) .....		6
フラワーページ		
・2011年を花き業界飛躍の年に (愛知豊明花き流通協同組合 早川利之) .....		8
青 果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) .....		9
・名古屋・東京市場における青果物の1月の見通し .....		10
花 き		
・切花・鉢花の1月の見通し(県内市場) .....		22
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2010年10月) .....		26
関連指数 .....		27

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

## うどんに適した小麦新品種「東海103号」を普及します

## 開発の背景

愛知県の小麦は、「農林61号」と「イワイノダイチ」の2品種が栽培され、主にうどんなどのめんの原料として利用されています。しかし、いずれの品種も、めんの色や食感の評価が外国産の小麦に劣ります。また「農林61号」には、収穫期が梅雨と重なり刈り遅れになりやすいことや、倒伏しやすいといった欠点があります。そこで農業総合試験場では、平成12年から（13年からは農林水産省指定試験事業の小麦育種指定試験地として）、東海地域に適した早生で収量性に富み、高品質な小麦の品種改良に取り組み、平成21年に新品種「東海103号」を開発しました。

## コシのあるめんができる「東海103号」

「東海103号」は、めんの加工適性が優れる「きぬの波」を母、早生で多収の「西海184号」を父として交配し、選抜を繰り返して開発しました。選抜にあたっては、「きぬの波」が持つめんの生地を強くするグルテニン遺伝子\* *Glu-B3g* に着目し、この遺伝子の有無を判別できるDNAマーカーを利用しました。

「東海103号」は *Glu-B3g* 以外にも生地を強くするグルテニン遺伝子を複数持つため、コシのあるめんができます。また、灰分とアミロース含量が低いいため、めんの色が明るくなめらかです。

\*グルテニン遺伝子とは、小麦粉生地のグルテンを構成するたんぱく質の一つであるグルテニンを作る遺伝子です。

## この地域に適した品種特性

「東海103号」は耐倒伏性、耐湿性に優れ、主に水田を利用して栽培するこの地域の小麦生産に適しています。「農林61号」より収穫時期は4日程度早く、6月上旬で、収量が20%程度多くなります。

## 今後の普及に向けて

「東海103号」は、平成21年9月に種苗法に基づく品種登録出願を行い、平成22年8月に県の奨励品種に採用されました。平成23年の播種から100ha程度の面積で一般栽培を開始し、平成24年からうどん等に利用される見込みです。平成27年の播種面積で2,000haまで拡大することを見込んでいます。「東海103号」の生産により、地場産の小麦を利用した商品の開発が拡大し、広く利用されていくことを期待しています。



「東海103号」の成熟期の草姿

「東海103号」の穂（左）  
（右：「農林61号」）

## 『西尾の抹茶』のブランド化について

### 1 ブランド化のきっかけについて

西尾市の茶栽培面積は 145ha と全国の 0.3%に過ぎませんが、全国的にも珍しい「抹茶」に特化した産地であるため、抹茶では全国シェアの約 20%を占めています。

しかし、平成 17 年に民間会社を実施したお茶の知名度調査では、1 位が静岡茶(43%)、2 位宇治茶(29%)、3 位八女茶(10%)と、西尾茶の知名度は高いものではありませんでした。

平成 18 年耕地及び作付面積統計数値

### 2 地域ブランドの取得について

平成 18 年 4 月に、特許庁は、地域経済の活性化や産業競争力の強化を図る「地域団体商標(地域ブランド)制度」をスタートさせました。

西尾市の茶生産農家で構成する西尾市茶業組合は、早速、地域団体商標の取得を目指しましたが、その時点では知名度が十分でなかったため、取得要件の「隣接県の消費者に名前が知られていること」をクリアすることができませんでした。

知名度を向上するため、平成 18 年 10 月 8 日に産・官・民が一体となって、市民 14,718 人が一斉に抹茶を飲むという「まちなか 1 万人・西尾大茶会」を開催したところ、当時のギネスブックにも認定されるなど話題となり、その PR 効果は大きなものでありました。

平成 19 年 4 月に生産農家、メーカー、小売業者で構成する「西尾茶協同組合」を新たに設立し、同年 7 月に特許庁へ『西尾の抹茶』の商標を出願し、平成 21 年 2 月 20 日に念願の地域ブランドを取得しました。

『西尾の抹茶』は、その名のとおり「抹茶」に限定したブランドで、定義は『西尾市・安城市・吉良町で生産された茶葉を同地域において、てん茶加工・仕上げ精製し、茶臼挽きした抹茶』としました。



ブランドマーク

### 3 地域団体商標取得後の状況及び今後の展開について

地域団体商標取得後、徐々に『西尾の抹茶』の知名度も向上し、西尾茶協同組合員等が発売したブランドマーク入り商品は 40 種類以上にのぼるなど、組合ではブランド力の向上と抹茶の需要増に手応えを感じています。



マーチャ

組合では毎年 10 月に、地元で茶会などのイベントを開催するとともに、県外の物産展にも積極的に参加して、『西尾の抹茶』の知名度をさらに向上させる取組を予定しています。



マーク入り商品

また、平成 22 年 10 月にデビューした抹茶の PR キャラクター「まーちゃ」も、各種イベントで活躍してもらえるよう計画しています。

## 農業の6次産業化への取り組み

各県の流通担当で組織する在京流通行政連絡会では、平成22年12月13日(月)に、千葉県香取市で農業生産法人和郷園の代表理事を務める木内博一氏を講師に迎え、農業の6次産業化をテーマにした講演会を開催しました。

以下に講演内容を紹介します。

## 1 農事組合法人和郷園の設立

木内博一氏の取り組みは、就農3年目の平成3年に、有志5名とともに取り組んだ野菜の産直から始まりました。当時は野菜の需給バランスが変動し、それまでの「作れば売れる」時代から、「作っても余る」時代に転換し始めていました。

千葉は都市近郊で、市場流通では競争相手の多い地域です。当時は両親が50歳前後、木内氏が20代と労働力的には一番充実していましたが、20年後には両親の高齢化に伴い、経営が厳しくなることが予想されました。このような状況で市場の価格競争に勝つためには、終わりのない規模拡大と経営コスト削減の繰り返ししかないと考えられました。

しかし、目指すべき経営は、不毛な価格競争ではなく、「農家が作ったものを再生産できる価格でしっかり販売できる仕組みづくり」であると考え、平成10年に農業生産法人和郷園を設立し、雇用経営により、「作ったものを売る」から「売るために作る」という注文生産方式を実践しました。



和郷園代表理事 木内博一氏

設立当時は、生協との「産直」活動の

他、大手スーパーを相手にほうれんそう、だいこんの取引を始めましたが、その後、流通業者や消費者のニーズ(川中・川下ニーズ)に応える形で「おいしい野菜、農薬の少ない野菜」の生産・販売にも取り組むようになりました。

また、平成16年には和郷園の登録農家である小見川農場がユーレップギャップを日本で最初に取得し、その後、和郷園では日本の気候風土に合わせた生産管理基準をつくり、農薬の管理・ドリフト対策、農作業安全と従業員の福利厚生等に取り組みました。こうした取り組みの結果、安心・安全な野菜として「ちばエ

---

ユーレップギャップ ... 欧州小売業組合適正農業規範。食品の安全性の確保、生産者の福祉、地球環境の保護の観点からさまざまな基準を設け、これをクリアした生産者に与えられる認証制度。1997年に規範が策定され、現在はドイツのケルンにある非営利の株式会社「フードプラス」を本部としている。

「コ農産物認証」を 28 品目で取得できるまでになりました。

5 戸で始めた和郷園は会員を増やし、現在の登録農家は専業農家が 92 戸、うち和郷園を主体に出荷する農家が 60 戸を数えるまでに発展しています。各農家は社員、パート等を雇用し、平均約 4 千万円の売上があります。

## 2 株式会社和郷の設立

平成 17 年に「株式会社和郷」を設立し、販売・流通部門を農業生産法人から全て移管しました。和郷では、経営安定のため、契約販売を行い、「特定の取引先への依存度を高めないように多様な顧客への販売」、「生鮮野菜として出荷できない規格外品等の加工を行い付加価値のついた商品として販売」、「将来の海外展開を考えた海外拠点づくり」を実践しています。

また、環境や安全にも配慮し、土壌診断、食品リサイクルによる土づくり、トレサビリティ情報による安全・安心の確保等にも取り組んでいます。これらの業務を実行するため、販売、栽培管理、IT 通販、加工、リサイクル及び海外などの事業部を設けています。現在、正規社員、パート従業員を合わせて約 500 名ほどいますが、ほとんどが非農家出身者です。

### 販売事業

生協、スーパー、外食企業などの取引先と直接商談を行い、取引先のニーズに合った農家とマッチングさせ、計画生産に結びつけています。

### 栽培管理事業（安全・安心な農業生産）

登録農家の農薬・肥料等の使用履歴をデータ化し、トレサビリティ情報を管理しています。また、必要以上の肥料を投入しないよう、土壌分析・診断を年間約 500 検体実施し、施肥設計の支援を行っています。

### IT 通販事業

和郷園の新鮮野菜を直送して欲しいと言う顧客の要望に応えるため、平成 17 年にインターネットによる通販を開始しました。生産者の出荷当日に産地から直送することで鮮度の高い野菜を届けています。

### 食品加工事業

平成 15 年にオープンした冷凍加工センター「さあや'S キッチン」では、主に生協のプライベートブランドとして、えだまめ、ほうれんそう、こまつななどを、旬の時期の野菜のおいしさをそのまま急速凍結する衛生管理の行きとどいた工場加工しています。

また、平成 17 年にオープンしたパック・カットセンターでは、主にスーパー向けにカット野菜の製造を行っています。特に、冷凍工場で製品化できないレタス、きゅうり、キャベツなどはカット工場で製品化しています。

### リサイクル事業（リサイクルセンター）

グループ内の酪農家から出る畜ふんを堆肥舎で発酵させています。

また、産業廃棄物処理業の資格を得て、自社や取引先から出る野菜残さを引

き取り堆肥に加工しています。

さらに、メタン発酵槽でガスを製造するバイオマスプラントの管理運営なども行い、専用のバイクや自動車等の燃料として利用しています。

#### 海外事業

少子高齢化や人口の減少で国内の市場規模が縮小傾向にあるなか、アジアのマーケットに参入するための拠点づくりを進めています。現在、タイでバナナ、マンゴーを生産販売し、主にタイ国内で「OTENTO」ブランドとして、大手資本に負けない価格で取引しています。タイ以外では香港、上海にも事務所を設け、情報収集や営業活動を行っています。

#### その他事業

関連事業として、都内にスーパー「OTENTO&まんぷくさん」をアンテナショップとして出店したり、パン、惣菜の直営店である「ナチュラル」、農産物直売所「風土村」や温泉施設「かりんの湯」を運営するなど、多角経営を行っています。

### 3 まとめ

農業経営の安定のために契約生産（1次産業）を行いますが、それでも発生する余剰農産物や規格外品を有効利用するために冷凍、カット加工（2次産業）を取り入れ付加価値をつけ、そして消費者ニーズを把握するためアンテナショップまたは直売所で販売（3次産業）することで、結果として6次産業に発展したと木内氏は話されました。

生産活動の延長線上に6次産業があったという事実は、今後、同じく企業経営を目指す生産者にとって参考になるものと思われます。

今の「和郷園」を支えているのは「経営者」として自覚し実践をしている個別の会員農家と、彼らの経営支援のため精力的に活動する和郷のスタッフが、同じ目標に向かって取り組んでいる成果ではないでしょうか。

## 元気印 将来の「あいちの茶」を背負う若者たち

今回は、生活環境の変化などに伴う茶の消費低迷による茶価の下落、後継者不足、茶園の荒廃面積の増加などといった茶業界にとって、多くの課題を抱える厳しい状況下でも、活発な活動をしている「愛知県茶業青年会」の取組を紹介します。

### 1 愛知県茶業青年会（以下、「青年会」という。）とは？

愛知県内の茶の生産に従事する若き担い手によって、昭和 47 年に設立された今年で 39 年目を向かえる歴史有る組織です。その目的は、茶の生産性の向上、経営の合理化等により茶業の振興発展を図る等としており、現在の会員数は 32 名（茶園面積 100ha）で、目的達成のため各種事業を実施するとともに、事業推進のため 5 地区（豊橋・豊田・西尾・吉良・新城）により活動しています。

### 2 活動紹介

高品質かつコスト低減をした魅力ある茶を消費者へ提供するため、高度な栽培・加工技術の修得と会員相互の資質向上を図るとともに、茶業界を取り巻く環境の変化を敏感に感じ取り、その対応策を講じる活動を実践しています。

#### （1）飽くなき茶審査技術の向上への取組

青年会では、年 2～3 回ほど東三河農業研究所において、「闘茶会（茶歌舞伎都）」を開催し、会員同士で切磋琢磨しています。

なお、その成果は、毎年全国茶品評会に合わせて開催される茶審査技術協議会で発揮されており、個人戦では毎年数名が 10 位以内に入賞している他、団体戦では平成 16 年の優勝を始め、平成 22 年は 3 位に入賞しています。



茶審査技術協議会での外観審査風景

#### （2）伝統を重んじた製茶技術の伝承への取組



揉み切り工程

青年会では、毎年、一番茶の摘採時期直前（4 月中下旬）に、豊橋地域にて手揉み保存会の師範を招いて講習会を開き、全国手もみ品評会に出品しています。

機械による製茶であったとしても、その工程の基本は、手もみによる製茶と同じであり、本格的な製茶工場稼働時期に備え、その年の茶の生育状況について手もみを通して、茶を肌で感じ取ることは非常に重要なことです。

また、手揉み技術資格者（教師クラス）が 2 名いますが、平成 21 年には、全国手もみ製茶技術競技大会において、準優勝を飾りました。

### (3) 「あいちの茶」の効果的な PR

青年会の上部組織である全国茶業青年会では、毎年11月23日の勤労感謝の日を「お茶いっぱいの日」として制定しています。今年はその日に合わせて、「あいちのふるさと農林水産フェア（期間：H22.11.20～23、入場者数134,033人）」中の後半2日間、ナゴヤドームにて、県、愛知県茶業振興大会及び愛知県茶業連合会、協賛茶商の協働・連携のもと、気軽に茶に接してもらう場や「あいちの茶」を購入できる場づくりを来場者に提供しました。

当日は、急須利用による「かぶせ茶」・「深蒸茶」、シェーカー（クラッシュアイス入り）利用による「抹茶」の試飲を約4,500人分の来場者に対して行うとともに、ラリーカード（アンケート有り）を配付（限定400枚）し、ラリー参加者に、品評会出品の茶を利用した一煎パック茶のプレゼントを実施しました。試飲コーナーでは、時より、「あいちの茶」を飲んでみようとする来場者で黒山の人だかりとなりました。

青年会員は、試飲やラリーの参加へのすすめや消費者からの茶に関する質問や疑問に対する説明を通して、「あいちの茶」のPRを熱心に行い、積極的に交流を図りました。

なお、トークショーでご出演いただいた元中日ドラゴンズ選手の立浪和義氏にも、ブースに立ち寄っていただき抹茶シェイクの実演や呈茶などによりPRに一役かかっていただきました。

また、「お茶いっぱいの日」の前後に開催された他のイベント（以下を参照）においても、一煎パック茶をプレゼントし、PRの連携を行いました。



青年会一丸となり「あいちの茶」のPR



立浪和義氏から来場者へ呈茶

#### <連携したイベント>

あいちのかんきつフェア

主催：愛知県果樹振興会

日程：平成22年11月28日（日）

場所：金山総合駅連絡通路橋 イベント広場

ピピッと あいち

主催：愛知県花き温室園芸組合連合会

日時：平成22年12月2日（木）

場所：名古屋栄 中日ビル B1



かんきつイベントとのコラボPR



## 2011年を花き業界飛躍の年に

皆さん、明けましておめでとうございます。

2011年は卯年、寅年のように勇猛果敢、派手に振る舞うことは出来ないにせよ、花き業界全体が着実な歩みを進め、ウサギに因んだ飛躍の年となることを願っております。

2010年は、花き業界の皆さんにとってどんな年だったでしょうか？

名古屋地区では、3月に念願の中核市場、名港花き市場が整備され、豊明花きと名港花き2つの中核市場がお互いに切磋琢磨し、新たな時代に対応する花き流通が囑望されましたが、結果的には、松原地区に残留した業者もあり、今後への課題は残された印象です。

また、天候面でも極めて厳しい年で、春は遅くまで寒さが続き、消費低迷が続きました。夏から秋にかけては一転して猛暑が長引き、消費面のみならず生産出荷にも大きな影響を与え、特に鉢物部門では、この影響が顕著な年となりました。

こうした中、国では、4月に「花き産業振興方針」が、10月には「第9次卸売市場整備基本方針」がそれぞれ改訂公表されました。その詳細に触れるには紙幅が足りませんが、要は、これまで、両方針で問題点の指摘や改善に向けての提言を行ってきたにもかかわらず、業界としての取り組みが遅く、このままでは大変なことになるという警告的な内容を強くにじませていると言われています。

もはや花き業界の再興は、極論すれば、「総論賛成・各論反対など評論家的な発想ではダメで、自ら良いと思うことは、出来るところから先行実行すべし」ということを迫っています。愛知からスタートした「フラワーウォーク」もようやく全国的な広まりを見せておりますし、即効性はともかく「花育の推進」などは、誰もが取り組める重要な課題でもあります。

愛知豊明花き市場でも 花文化の情報発信として江戸菊を始めとした古典菊の展示・栽培講習会やガーデニングコンテスト 街の花飾り支援として、名鉄豊明駅で季節感あふれた寄植え展示 花きの輸出促進策として、公募型事業を活用した商談会の開催など様々な取り組みを進めています。また、バレンタインデーもチョコレート業界だけでなく花きの販促にも結びつけようとする動きも出てきています。一方、デパート業界では、新たな物日として66歳を「緑寿」と定め、販促につなげる行動を始めています。



名鉄豊明駅での寄植え展示

2011年度国の予算編成は、大幅な税収不足を背景として事業見直しが進められています。当然のことながら、花き産業振興に注がれる税金も必要最小限にとどまることは必定の流れです。

もはや、花き産業が長引く不況から脱出し、活力を取り戻すには、生産、流通、小売など花き産業に携わる業界のひとりひとりが自らの責任において、総力を挙げ、率先垂範して「改善」に取り組むことが、2011年を飛躍の年とする原点であると考えます。

## 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

### ○ 名古屋中央卸売市場（品目：小松菜）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	うち愛知産	前年の主な他産地 (上位3産地)
22年実績	170	114 (67%)	471	420	岐阜 (24%) 茨城 (4%)
23年見通し	200	—	360	—	
<b>入荷量及び卸売価格の概要と見通し</b>			<b>卸売市場から産地への要望・提言等</b>		
愛西市を始め海部地区を中心に入荷。 愛知は、12月前半の気温が高かったため生育は良く順調な入荷が見込まれ、1月分の入荷は多くなる見込み。 愛知は作付面積減少により入荷量減少、岐阜のハウス栽培は前年並みの入荷量を見込む。価格は前年をお幅に下回る見込み。			販売価格が数年来伸び悩んでいることから作付面積は減少し続けている。 入荷の集中による値崩れが心配されるため計画的な出荷をお願いしたい。 正月料理の需要は低下しているが、栄養価も高くほうれんそうに比べて値ごろ感があることから、給食や病院食、おひたし以外の新しい食べ方のPRが必要。		

### ○ 東京都中央卸売市場（品目：セルリー）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	うち愛知産	前年の主な他産地 (上位3産地)
21年実績	792	143 (18%)	251	230	静岡 (54%) 福岡 (15%) 茨城 (6%)
22年見通し	820	—	220	—	
<b>概 要 と 見 通 し</b>			<b>卸売市場から産地への要望・提言等</b>		
静岡が入荷の約5割を占め、愛知、福岡がそれに続く。静岡は近年、2月出荷から1月出荷にウエートを高めている。下旬には茨城の入荷が本格化する。各産地とも生育は良好で、順調な入荷が見込まれる。ハウス栽培の出荷が本番となり、品質についても良好となる見込み。 入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。			セルリーは小売では一本売りが定着しているが、販促時にはMやSサイズの半株にする引き合いが強い。愛知産の形状や品質には大きな問題はないが日により入荷量が安定しない。適期収穫や温度管理による品質保持は勿論、安定出荷に努めて欲しい。		

名古屋・東京市場における青果物の1月の見通し

名古屋市中央卸売市場

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	18年	31,194	229	276	218	212	愛知 29%
	19年	33,666	191	233	180	179	北海道 21%
	20年	32,356	186	218	172	181	茨城 6%
	21年	32,270	210	231	200	204	静岡 5%
	22年	29,155	221	235	218	215	
	5カ年平均	31,728	207	-	-	-	
	23年見通し	29,400	221	-	-	-	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は地元愛知と北海道が中心。葉もの、果菜を中心に、夏場の高温による生育不良から回復しつつある。北海道が中心となる土ものは昨年からの貯蔵品の計画入荷が続き、数量少なく高騰する見込み。 入荷量、価格ともに前年並みとなる見込み。							
だいこん	18年	1,917	98	104	96	96	静岡 49%
	19年	2,066	45	68	36	40	千葉 16%
	20年	2,032	47	58	41	46	徳島 10%
	21年	2,103	69	60	70	74	愛知 9%
	22年	1,707	76	82	75	74	
	5カ年平均	1,965	66	74	63	65	
	23年見通し	1,800	70	70	70	70	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は静岡中心で中旬まで愛知、徳島、千葉が出る。作付面積は減少しているが生育は順調で、安定した入荷が見込まれる。小玉傾向で、2L、L中心の玉流れとなる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
にんじん	18年	2,422	114	134	113	106	愛知 80%
	19年	2,887	59	72	64	49	千葉 13%
	20年	2,538	82	101	87	72	鹿児島 5%
	21年	2,325	104	108	106	101	熊本 2%
	22年	2,098	79	89	80	73	
	5カ年平均	2,454	86	100	89	79	
	23年見通し	2,000	90	100	90	80	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は愛知中心で、千葉も出て、鹿児島も始まる。愛知はL中心で入荷のピークを迎える。千葉は8、9月の天候不良から数量少ない。全体の入荷量は平年並み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

12月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	18年	112,818	258	310	242	240	千葉 20%
	19年	121,416	209	244	197	198	茨城 15%
	20年	123,082	203	225	187	203	北海道 10%
	21年	124,017	226	242	215	222	愛知 8%
	22年	117,517	236	246	226	237	(愛知産比率 8%)
	5ヵ年平均	119,770	226	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し		120,000	225	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前月に引き続き関東産地からの入荷が中心で、土物類は北海道からの入荷となる。土物類は不作で数量が少ないがその他は、夏場の高温や干ばつの影響がほとんど無くなり平年並みの作柄となった。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格はやや下回る見込み。</p>					
だいこ	18年	11,521	107	111	105	106	神奈川 54%
	19年	12,150	53	71	46	48	千葉 42%
	20年	12,958	53	59	50	51	徳島 4%
	21年	12,908	67	57	67	76	静岡 1%
	22年	12,282	81	84	77	81	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	12,364	72	76	68	72	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し		12,900	70	75	65	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心となる。神奈川は生育順調で現在、2Lサイズ中心の出荷となっているが、年明けも同様な傾向が続く。千葉も生育順調で2Lサイズ中心の出荷で量は潤沢となる。 入荷量は前年をやや上回り、価格はかなり下回る。</p>					
にんじん	18年	6,301	130	148	129	123	千葉 82%
	19年	7,714	64	73	66	58	埼玉 10%
	20年	7,332	96	100	95	95	茨城 6%
	21年	7,000	114	119	115	111	東京 1%
	22年	7,490	77	86	78	73	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	7,167	95	103	95	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し		7,000	105	110	105	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉を中心に関東産地からの入荷となる。千葉は高温、干ばつで初期生育が遅れ、現在1週間程度の遅れとなっている。サイズもやや小振り、品質も低下し、出荷量も少ない。埼玉も同様な傾向である。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る。</p>					

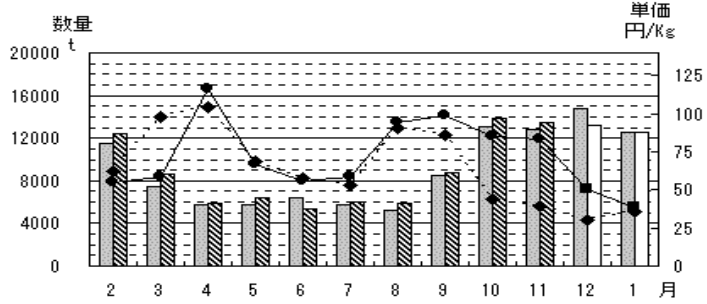
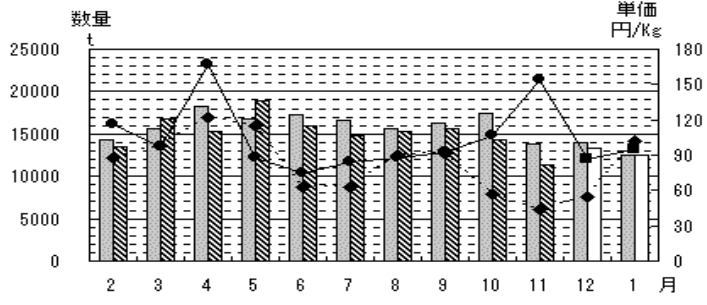
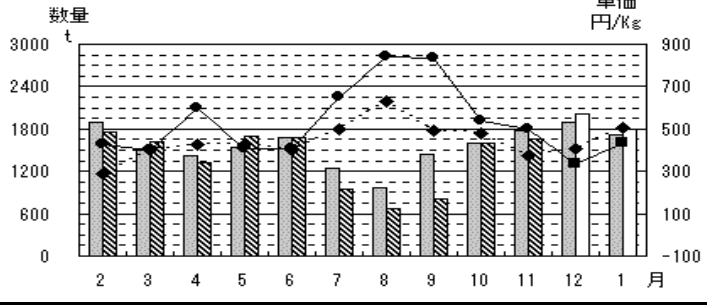
名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうきさい	18年	2,846	71	77	66	71	愛知 52% 茨城 30% 長野 7%
	19年	2,938	52	67	46	47	
	20年	2,867	56	63	48	60	
	21年	3,073	74	74	69	78	
	22年	2,430	61	61	61	61	
	5ヵ年平均	2,830	63	69	58	64	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	2,600	65	65	65	65		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は地元愛知と茨城中心。愛知の産地は尾張から東三河へ移行し、作付はやや減少。茨城は商系が中心で、入荷量は不安定となる。入荷量は前年ほどの落ちこみはなく、冷え込み次第では需要高まる。入荷量、単価とも前年をかなり上回る見込み。</p>					
キャベツ	18年	2,595	142	183	137	127	愛知 90% 茨城 6% 鹿児島 2%
	19年	3,142	45	50	44	44	
	20年	3,100	64	72	55	66	
	21年	2,805	119	117	120	118	
	22年	2,491	92	74	92	105	
	5ヵ年平均	2,826	90	97	87	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	2,800	80	80	80	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知中心。茨城、鹿児島が若干。これまで入荷量が少なく高値が続いたが、平年並みまで戻る。好天候が続けば、安定した入荷が続く見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	18年	458	491	692	468	426	愛知 85% 群馬 6% 茨城 4% 0
	19年	432	378	431	363	366	
	20年	506	257	233	208	324	
	21年	399	434	449	443	418	
	22年	378	509	533	506	497	
	5ヵ年平均	435	407	461	389	401	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	400	400	400	400	400		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は地元愛知主体で、他は群馬、徳島等から愛知分の不足を補う量が入る。県内産地は高齢化して作付面積は減少しており、大きな数量は出てこない見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	18年	13,343	60	62	59	58	茨城 87%
	19年	12,674	27	37	25	23	群馬 11%
	20年	12,535	38	40	34	39	埼玉 1%
	21年	12,889	54	53	52	58	兵庫 1%
	22年	12,524	36	34	37	38	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	12,793	43	45	42	43	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	12,500	38	40	36	38		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前月に続き茨城からの入荷が中心で、群馬からの入荷も増えてくる。茨城の生育は順調で平年並みの見込み。群馬の生育も順調で、作柄は平年並みの見込み。 入荷量は前年並みで、価格はやや前年を上回る見込み。</p>					
<p>前月に続き茨城からの入荷が中心で、群馬からの入荷も増えてくる。茨城の生育は順調で平年並みの見込み。群馬の生育も順調で、作柄は平年並みの見込み。 入荷量は前年並みで、価格はやや前年を上回る見込み。</p>							
キャベツ	18年	11,823	142	180	137	124	愛知 58%
	19年	13,086	52	51	52	52	千葉 22%
	20年	13,372	64	66	58	68	神奈川 13%
	21年	13,314	111	103	116	112	茨城 4%
	22年	12,518	102	83	105	113	(愛知産比率 58%)
	5ヵ年平均	12,823	93	95	93	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	12,500	95	100	90	95		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知と千葉、神奈川からの入荷が中心となる。愛知の生育は順調であるが、平年よりもやや小玉傾向である。千葉は播種の遅れから回復傾向で前年並みの出荷が見込まれる。 入荷量は前年並み、価格はかなり下回る見込み。</p>					
<p>愛知と千葉、神奈川からの入荷が中心となる。愛知の生育は順調であるが、平年よりもやや小玉傾向である。千葉は播種の遅れから回復傾向で前年並みの出荷が見込まれる。 入荷量は前年並み、価格はかなり下回る見込み。</p>							
ほうれんそう	18年	1,764	553	743	528	437	群馬 29%
	19年	1,979	384	428	395	347	埼玉 23%
	20年	1,932	338	383	292	352	茨城 22%
	21年	1,905	384	391	382	380	千葉 19%
	22年	1,721	507	551	491	490	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	1,860	429	494	414	398	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	1,800	430	480	410	400		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷でほぼ全量を占める。群馬、埼玉、茨城、千葉とも好天に恵まれ、生育順調である。年末に寒波が来ない限りはこのまま推移すると見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、単価は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
<p>関東産地からの入荷でほぼ全量を占める。群馬、埼玉、茨城、千葉とも好天に恵まれ、生育順調である。年末に寒波が来ない限りはこのまま推移すると見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、単価は前年を大幅に下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ね	18年	996	347	442	308	318	愛知 26%
	19年	1,033	277	368	271	236	大分 17%
	20年	1,037	337	426	300	322	静岡 17%
	21年	1,126	340	390	329	314	群馬 11%
	22年	1,138	359	435	341	320	
ぎ	5カ年平均	1,066	333	412	311	302	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,100	360	360	360	360	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		産地は愛知の長ねぎと、静岡、群馬、大分の白ねぎ。前月は高かったが、夏の高温による生育遅れ分が年明けに市場に出るため、価格は下がってくる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みとなる見込み。					
し た ス	18年	1,283	339	453	317	297	兵庫 45%
	19年	1,733	218	231	207	219	愛知 18%
	20年	1,782	157	158	143	170	静岡 14%
	21年	1,516	276	308	256	268	熊本 7%
	22年	1,433	266	251	264	281	
ス	5カ年平均	1,549	244	270	231	242	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,500	220	250	200	200	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		産地は兵庫の淡路中心で、愛知、静岡、熊本。兵庫の生育は夏場の少雨により順調で、計画通りの入荷を見込む。高天候が続けば、安定した入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は大幅に下回る見込み。					
き ゆ う り	18年	1,210	443	348	414	579	愛知 44%
	19年	1,318	453	477	440	443	宮崎 24%
	20年	2,316	221	166	233	276	高知 19%
	21年	1,356	337	319	312	379	鹿児島 13%
	22年	1,277	327	278	345	357	
り	5カ年平均	1,495	337	297	332	387	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,300	340	320	350	350	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		産地は愛知と、宮崎、高知、鹿児島。夏場の高温の影響から、数量は回復してくるため、価格も落ち着いてくる。年明けも好天候が続けば、安定した入荷が見込まれる。 入荷量は前年並みとなり、価格は前年をやや上回る見込み。					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ね	18年	4,642	275	358	252	244	千葉 33%
	19年	5,498	176	253	157	149	埼玉 31%
	20年	5,367	229	275	210	218	茨城 11%
	21年	5,628	203	242	188	186	群馬 11%
	22年	5,164	269	319	260	242	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	5,260	228	287	211	206	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	5,200	250	280	260	210		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、埼玉を中心とする関東産地からの入荷が中心となる。千葉、埼玉とも夏の高温、干ばつの影響も薄れ、平年並みの生育状況となってきた。肥大については若干小振りである。 入荷量は前年並みで、価格はわずかに下回る。</p>					
し た す	18年	6,218	360	513	328	285	静岡 36%
	19年	7,866	210	223	200	207	香川 12%
	20年	8,475	147	153	130	158	兵庫 12%
	21年	7,250	274	299	258	266	千葉 8%
	22年	6,752	276	264	276	285	(愛知産比率 5%)
	5ヵ年平均	7,312	246	279	231	235	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	6,880	260	270	265	245		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前月に引き続き静岡、香川、兵庫からの入荷が中心となる。静岡の生育は定植時の高温、干ばつの影響も無く、適度の降雨で大玉傾向の見込み。香川、兵庫の生育も順調で、平年並みの作柄の見込み。 入荷量はやや前年を上回り、価格は前年をやや下回る。</p>					
き ゆ う り	18年	4,616	485	378	469	605	宮崎 34%
	19年	4,699	499	563	483	461	千葉 22%
	20年	4,612	466	418	417	557	高知 22%
	21年	5,455	365	345	347	402	茨城 8%
	22年	5,463	345	310	361	363	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	4,969	427	398	411	471	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	5,460	345	320	355	360		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>西南暖地と関東産地からの入荷が中心となる。宮崎、高知の生育は順調であり、千葉、茨城産は遅れていた生育が回復し、順調に推移している。 入荷量は前年並みで、価格も前年並みの見込み。</p>					



名古屋市中央卸売市場

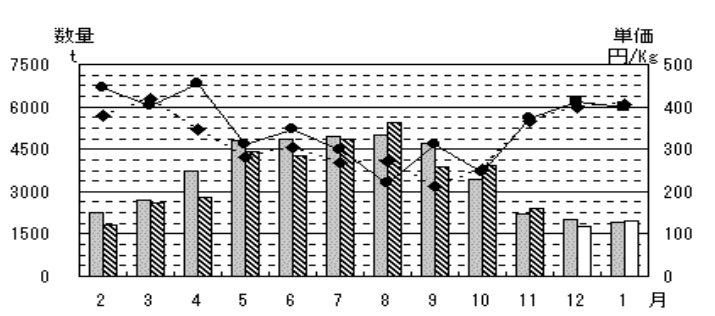
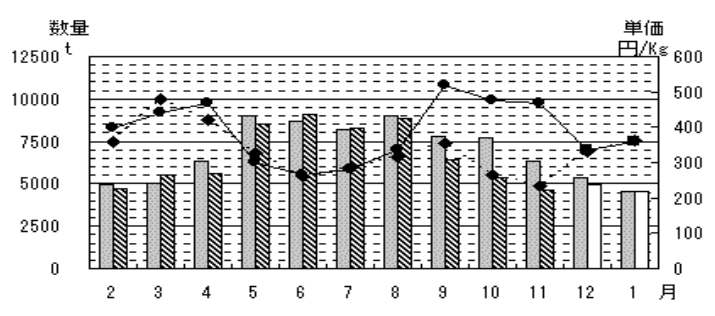
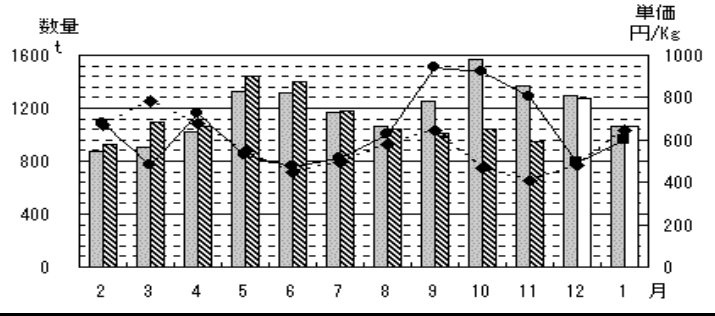
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な	18年	565	317	299	293	366	愛知 52%
	19年	506	339	272	347	399	熊本 44%
	20年	485	317	281	294	388	鹿児島 2%
	21年	453	362	316	360	412	高知 2%
	22年	448	331	256	354	393	
す	5ヵ年平均	491	332	285	328	391	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	460	320	300	340	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知の干両と熊本の長なす。好天候が続くことから日照時間が短くなるとともに数量は減少する。冷え込みの本格化とともに需要は落ち込み、販売環境は苦しくなる見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ト マ ト	18年	954	277	308	263	266	熊本 41%
	19年	972	274	201	283	332	愛知 33%
	20年	918	277	249	272	306	三重 17%
	21年	859	331	329	334	329	岐阜 8%
	22年	765	325	262	332	372	
ト	5ヵ年平均	893	295	269	295	319	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	800	300	300	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知、熊本、三重中心で、愛知も尾張近郊は数量を減らし東三河中心へ。熊本は数量減少傾向。荷動き悪く、スーパーでは価格据置きで販売環境悪い。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	18年	274	517	517	456	580	熊本 54%
	19年	260	552	451	555	659	愛知 35%
	20年	286	471	445	459	505	和歌山 9%
	21年	250	587	570	548	643	
	22年	268	643	567	634	725	
ト	5ヵ年平均	268	552	509	529	620	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	275	550	500	550	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知、熊本中心。病害虫の発生はみられず、作付は前年並みで、高温の影響による生育遅れからも回復する見込み。小玉傾向で数量はやや少ない。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

「なす」の数値には「べいなす」を含まない。

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	18年	2,496	361	291	369	422	高知 64%
	19年	2,140	384	306	393	456	福岡 16%
	20年	2,153	372	322	332	467	熊本 6%
	21年	1,996	415	367	414	467	佐賀 5%
	22年	1,907	406	299	449	479	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	2,138	386	316	389	456	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	1,950	400	390	390	420		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>西南暖地からの入荷が中心となる。高知は厳寒期に入りピークが12月から1月へずれ込む見込み。福岡は朝晩の冷え込みが強くなり生育が鈍くなっている。1月中下旬には生育が落ち着いて来る見込み。 入荷量はやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
ト マ ト	18年	5,156	296	334	283	275	熊本 41%
	19年	5,423	277	215	288	332	愛知 14%
	20年	5,109	298	260	305	332	栃木 11%
	21年	4,579	388	397	385	381	静岡 6%
	22年	4,581	362	293	373	417	(愛知産比率 14%)
	5ヵ年平均	4,970	321	297	324	345	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	4,580	360	340	360	380		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、栃木からの入荷が中心となる。熊本の生育は一部に1週間程度の遅れがみられるものの、中旬には全体的に揃う見込み。愛知、栃木は生育不良も回復し、平年並みとなる見込み。 入荷量は前年並みで、価格も前年並みの見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	18年	1,023	519	519	472	569	熊本 36%
	19年	1,026	522	428	506	646	愛知 23%
	20年	1,058	491	473	470	529	宮崎 14%
	21年	1,041	586	574	550	634	千葉 11%
	22年	1,058	647	578	639	718	(愛知産比率 23%)
	5ヵ年平均	1,041	553	515	528	619	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	1,060	600	580	590	630		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前月に引き続き熊本、愛知からの入荷が中心となる。熊本も天候が安定しているため、生育は順調。愛知も比較的天候が安定しているため生育は順調。 入荷量は前年並みで、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	18年	447	523	368	526	703	鹿児島 45%
	19年	407	646	487	711	784	宮崎 39%
	20年	392	488	376	494	594	高知 16%
	21年	416	573	475	586	673	
	22年	359	638	475	702	714	(愛知産比率 0%)
マン	5カ年平均	404	572	435	601	694	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	370	600	450	600	650	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は西南暖地中心。厳寒期で最も加温を必要とする時期であるため、重油の単価次第では加温控えによる入荷量の減少もある。気温の低下とともに数量は減少し、高単価が続く見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ばいしよ	18年	3,147	117	114	121	115	北海道 62%
	19年	3,239	107	112	106	107	長崎 29%
	20年	2,843	90	91	87	92	鹿児島 9%
	21年	2,964	97	97	100	94	
	22年	2,586	128	128	131	125	(愛知産比率 0%)
いしよ	5カ年平均	2,956	108	108	109	106	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	2,600	145	145	145	145	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は北海道中心で、長崎、鹿児島。北海道は小玉傾向で、生食、加工用ともに平年になく少ない収穫量を計画出荷。九州産地は抑制ものが1月から出回る、生育順調だが荷の不足から高値となる見込み。 入荷量は前年並みで、価格は高かった前年をかなり上回る見込み。</p>					
たまねぎ	18年	4,417	88	85	98	81	北海道 95%
	19年	4,811	85	87	92	79	アメリカ 4%
	20年	4,484	72	76	70	73	静岡 1%
	21年	5,040	72	68	72	75	兵庫 0%
	22年	4,460	106	105	109	104	
ねぎ	5カ年平均	4,642	84	84	88	82	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	4,000	135	135	135	135	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は北海道中心で、計画出荷が春まで続く。高価格が続く業務需要に対応できないことから、加工・量販店を中心に米国産の需要が高まっている。上旬には新玉ねぎが出るが高根は続く。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は高かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	18年	1,333	567	415	558	712	宮崎 44%
	19年	1,310	702	557	726	832	茨城 20%
	20年	1,250	597	425	538	838	高知 20%
	21年	1,291	624	505	637	725	鹿児島 14%
	22年	1,251	661	510	750	697	(愛知産比率 -%)
マン	5カ年平均	1,287	630	482	641	761	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,210	670	590	660	760	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		西南暖地からの入荷が中心となる。宮崎、高知は夏の定植不良が影響し、生育不良、着果不良から出荷が少ない。1月中下旬にはさらに少なくなる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格はわずかに上回る見込み。					
ばれいしょ	18年	6,695	121	118	122	121	北海道 64%
	19年	7,176	118	120	119	117	長崎 26%
	20年	8,214	93	99	94	91	鹿児島 9%
	21年	8,207	106	106	107	106	(愛知産比率 0%)
	22年	7,524	138	135	139	138	
いしょ	5カ年平均	7,563	114	115	115	114	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	7,370	140	135	145	140	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		北海道、長崎からの入荷が中心となる。北海道は貯蔵物が主力となり、年内は小玉傾向であったが年明けはL玉中心の出荷となる。長崎は定植時の遅れも回復し順調な生育である。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格はわずかに上回る。					
たまねぎ	18年	8,195	103	102	102	103	北海道 87%
	19年	8,524	96	90	96	99	米国 7%
	20年	8,203	81	79	80	82	中国 3%
	21年	9,596	78	77	76	80	静岡 2%
	22年	8,145	127	121	123	135	(愛知産比率 0%)
ねぎ	5カ年平均	8,533	96	93	95	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	8,000	130	125	130	135	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		北海道中心の入荷が続く、夏場の高温や局地的な大雨により、病害虫や肥大不足など不作となっている。出荷は少なかった前年をさらに下回る見込み。少ない分米国や中国からの輸入ものが増える。 入荷量は、前年をわずかに下回り、価格はわずかに前年を上回る。					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量			卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
果実計	18年	11,181	295	365	271	276	フィリピン	18%	
	19年	10,541	366	398	354	358	静岡	18%	
	20年	10,776	277	320	262	263	青森	16%	
	21年	10,486	316	357	299	300	愛知	15%	
	22年	9,777	283	307	268	281			
	5ヵ年平均	10,552	307	-	-	-	前年及び本年の入荷量・価格の動き		
	23年見通し	9,100	330	-	-	-			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>春の天候不順による花落ち・着果不良と、梅雨明け後の高温の影響で、果樹を中心に入荷は平年になく少量となる見込み。中心となるみかんも裏年で数量不足。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							
みかん	18年	2,990	171	181	170	162	静岡	60%	
	19年	2,842	304	299	311	298	愛知	28%	
	20年	3,563	123	141	109	123	和歌山	8%	
	21年	2,953	249	258	244	245	熊本	1%	
	22年	2,789	163	172	152	164			
	5ヵ年平均	3,027	198	-	-	-	前年及び本年の入荷量・価格の動き		
	23年見通し	2,500	250	250	250	250			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は静岡、愛知、和歌山中心。裏年と夏場の高温から、入荷量は平年より2割ほど少なくなる見込みだが、食味は良く大玉傾向でL-2L中心となる見込み。蒲郡は、青島の比率が少ない。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>							
いちご	18年	943	1,286	1,469	1,140	1,230	愛知	56%	
	19年	976	1,243	1,304	1,176	1,244	熊本	20%	
	20年	888	1,179	1,274	1,086	1,164	鹿児島	9%	
	21年	1,010	1,064	1,163	910	1,092	三重	7%	
	22年	890	1,054	1,141	996	1,033			
	5ヵ年平均	941	1,165	-	-	-	前年及び本年の入荷量・価格の動き		
	23年見通し	900	1,050	1,100	1,000	1,050			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知中心で、熊本。愛知は高温による定植の遅れと炭疽病が発生していることから作柄は悪く、数量少なくなる見込み。熊本も同傾向。下旬に2番果が出るが、多くはない見込み。入荷量、価格ともに前年並みとなる見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果実計	18年	43,212	315	390	290	296	愛媛 16%
	19年	37,958	405	476	374	400	静岡 17%
	20年	40,636	316	409	300	281	青森 12%
	21年	42,156	339	382	320	323	フィリピン 10%
	22年	42,156	297	340	278	289	(愛知産比率 1%)
	5カ年平均	41,400	342	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	39,500	315	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			<p>数量 単価 円/kg</p> <p>前年数量 本年数量 前年単価 本年単価</p>				
みかん中心にりんご、いちごなどが入荷する。中旬以降は「不知火」などの中晩柑がこれに加わる。特にみかん類は、小玉傾向などから入荷量が減少する見込みである。 全体の入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							
みかん	18年	17,747	176	185	175	171	静岡 37%
	19年	13,883	305	295	312	301	愛媛 18%
	20年	17,418	150	168	144	146	和歌山 13%
	21年	15,641	235	235	232	239	長崎 13%
	22年	17,234	165	171	159	167	(愛知産比率 -%)
	5カ年平均	16,385	201	207	199	200	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	15,500	250	250	250	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			<p>数量 単価 円/kg</p>				
「普通みかん」主力となり、静岡、愛媛、長崎、和歌山などから入荷する。静岡、長崎は生産量が少ないが玉伸びは平年並みで正品率も高い。愛媛産の早生みかんも入荷量は少ない見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回ると見込まれる							
いちご	18年	4,180	1,246	1,421	1,154	1,175	栃木 39%
	19年	4,184	1,274	1,271	1,201	1,263	福岡 18%
	20年	4,126	1,189	1,284	1,093	1,175	茨城 14%
	21年	4,280	1,127	1,189	1,041	1,163	佐賀 10%
	22年	4,401	1,053	1,121	1,019	1,020	(愛知産比率 3%)
	5カ年平均	4,234	1,176	1,255	1,100	1,158	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	4,500	1,050	1,100	1,000	1,100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			<p>数量 単価 円/kg</p>				
栃木中心に、福岡、茨城、佐賀から入荷する。各産地ともに定植遅れの影響から、年末～年始にかけて1番果のピークがくる見込み。栃木は回復傾向で前年並み。福岡は下旬の2番果で増量。茨城は増える見込み。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は平年並みと見込まれる。							

# 切花・鉢花の1月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 12月28日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実 績	18年	2,519	53	
		19年	2,462	54	
		20年	2,460	56	
		21年	2,351	57	
		22年	2,120	59	
	5ヶ年平均	2,382	56		
23年見通し	2,300	55			
概要	愛知、沖縄、三重を中心に入荷。全国的に生育は前進傾向にあり、上旬はやや多めで始まるが、中旬以降は出荷量も減少する。業務需要中心の動きとなるため、数量が少なめで推移すれば強めの動きとなる見込み。				
小 ぎ	実 績	18年	1,399	27	
		19年	1,284	34	
		20年	1,049	28	
		21年	1,130	29	
		22年	1,047	30	
	5ヶ年平均	1,182	30		
23年見通し	1,100	30			
概要	沖縄を中心に入荷。前月中に出荷調整をしているため、上旬までは平年並みの入荷が見込まれるが、中旬以降は輪菊同様、減少に向かう。需要が少ない時期だが数量が少なめで推移すれば、価格は安定する見込み。				
カー ネ ー シ ョ ン	実 績	18年	1,055	43	
		19年	1,151	39	
		20年	926	35	
		21年	980	38	
		22年	939	35	
	5ヶ年平均	1,010	38		
23年見通し	1,000	36			
概要	愛知を中心に和歌山、長野等から入荷。生育は全体的に遅れ気味で推移しており、年越しの物もあるため順調な入荷が見込まれる。前半はブライダル、成人式等の需要である程度の動きも期待できるが、後半はやや軟調となる見込み。				
か す み	実 績	18年	226	70	
		19年	183	76	
		20年	188	61	
		21年	176	69	
		22年	154	83	
	5ヶ年平均	186	71		
23年見通し	160	70			
概要	高知、和歌山、熊本等から入荷。入荷量は平年並みだが、全体的に荷動きは悪く、販売環境はやや苦しいと思われる。価格は、前半成人式の需要があり堅調な動きも、後半はやや苦しい動きとなる。				

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	18年	329	186	
		19年	322	187	
		20年	322	178	
		21年	263	198	
		22年	250	186	
	5ヶ年平均		297	187	
	23年見通し		265	190	
概要	高知、愛知、埼玉、静岡等から入荷。オリエンタル系は入荷量が少なくなるものの、荷動きは悪く、苦しい販売環境展開となる見込み。てっぽうゆり、LA系は年末需要のピークが終わって、入荷量は減少し、業務需要を中心とした堅調な動きとなる見込み。				
洋 ら ん	実績	18年	401	84	
		19年	383	90	
		20年	363	85	
		21年	329	93	
		22年	352	79	
	5ヶ年平均		366	86	
	23年見通し		320	90	
概要	高知、徳島、愛知、鹿児島等と輸入物が入荷。今夏の猛暑の影響で遅れていた胡蝶蘭の入荷量は年明けから徐々に増加する。下旬には相当量が出ると予想され、品目によってはかなり苦しい価格展開になることが予想される。				
ば ら	実績	18年	656	75	
		19年	680	85	
		20年	645	83	
		21年	711	77	
		22年	666	76	
	5ヶ年平均		672	79	
	23年見通し		700	80	
概要	愛知、岐阜、三重、和歌山より入荷。年末需要分の出荷遅れも少なく、入荷量はやや減少する見込み。上旬は成人式等需要もあり堅調するが、需要が少ない後半は入荷量によっては軟調となる見込み。				
枝 も の	実績	18年	1,299	47	
		19年	1,383	46	
		20年	1,265	50	
		21年	1,269	49	
		22年	1,095	48	
	5ヶ年平均		1,262	48	
	23年見通し		1,200	48	
概要	長野、愛知、静岡等を中心に入荷。桜、ボケ、ユキヤナギ等促成物が主体となる見込み。前半は稽古の休みが多く花材の動きは悪いが、後半は稽古も再開するため、堅調に推移するであろう。				



品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
工 力	実 績	18年	43,353	223	
		19年	35,585	222	
		20年	38,335	207	
		21年	38,496	239	
		22年	30,582	211	
	5ヶ年平均		38,754	218	
	23年見通し		38,500	190	
概要	<p>入荷量は昨年並み又は、やや増加か。昨年12月の開花遅れのものが、この月に入荷する。単価は白花以外は安定か。                      昨年1月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位新潟(36%)、2位山梨(24%)、3位静岡(19%)となっている。</p>				
プ ラ ム	実 績	18年	617,353	100	
		19年	600,516	104	
		20年	647,705	102	
		21年	532,685	105	
		22年	502,370	94	
	5ヶ年平均		585,652	96	
	23年見通し		490,000	100	
概要	<p>入荷量はやや減少か。夏の猛暑の影響で苗の生育不良が原因。昨年末に続き、需要期であるので品薄状態となり、良品については高質安定か。                      昨年1月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知(41%)、2位埼玉(13%)、3位三重(11%)となっている。</p>				
チ ュ ー リ ッ プ	実 績	18年	115,834	198	
		19年	100,643	203	
		20年	103,661	230	
		21年	100,660	150	
		22年	103,278	162	
	5ヶ年平均		104,160	177	
	23年見通し		100,000	150	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。4号鉢を中心に4~7号の花付きと、3号ポット等の芽出しとなる。この月が一番の需要期となるので、安定相場を期待したい。                      昨年1月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知(39%)、2位埼玉(38%)、3位新潟(7%)となっている。</p>				

単位：鉢、円/鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	18年	65,815	277	
		19年	72,176	302	
		20年	62,998	261	
		21年	65,192	265	
		22年	44,920	314	
	5ヶ年平均	62,220	282		
	23年見通し	40,000	300		
概要	<p>入荷量は昨年よりやや減少か。夏の猛暑の影響で苗の生育不良が原因。単価は上旬の成入式等のイベント時期は安定するが、需要期以外は厳しいと思われる。                      昨年1月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位愛知（28%）、2位埼玉（14%）、3位栃木（10%）となっている。</p>				
マーガレット	実績	18年	67,747	197	
		19年	46,757	211	
		20年	41,406	196	
		21年	36,732	183	
		22年	37,578	193	
	5ヶ年平均	46,044	197		
	23年見通し	37,000	190		
概要	<p>入荷量は昨年並みか。5号鉢以上は少なく、4号鉢以下の小鉢が主体となる。単価は天候に左右されると思うが安定か。                      昨年1月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位愛知（37%）、2位岐阜（28%）、3位静岡（19%）となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	18年	27,778	902	
		19年	25,204	956	
		20年	24,728	1,654	
		21年	23,737	771	
		22年	19,072	1,066	
	5ヶ年平均	24,104	1,068		
	22年見通し	20,000	1,000		
概要	<p>入荷量は夏の猛暑で12月の山上げ商品の開花遅れのものが、この月に入荷し、増加。単価は安定か。                      昨年1月の主要県の入荷実績（金額ベース）は、1位愛知（63%）、2位岐阜（11%）、3位三重（9%）となっている。</p>				

# 主要農林水産物の輸出入実績(2010年)

## 1 輸入実績

品名	10月						10月までの累計					
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
	トン	%	千円	%	円/kg	%	トン	%	千円	%	円/kg	%
野菜(生鮮・冷蔵)	67,868	170.9	8,060,880	138.3	119	80.9	590,440	130	60,610,399	127	103	98.5
トマト	263	92.9	86,372	131.6	328	141.7	2,548	139	898,452	188	353	129.6
たまねぎ	32,896	165.6	1,174,968	156.4	36	94.5	252,924	151	10,777,284	170	43	112.3
にんにく	1,441	90.3	336,227	162.0	233	179.4	15,640	93	2,900,583	180	185	177.6
ねぎ	5,407	188.7	623,976	253.3	115	134.3	39,973	152	3,791,080	139	95	94.3
ブロッコリー	5,026	225.9	824,037	236.4	164	104.6	32,911	119	5,553,574	124	169	103.7
結球キャベツ	2,395	686.6	78,168	657.8	33	95.8	16,368	128	606,543	132	37	102.9
にんじん・かぶ	7,754	215.8	293,608	191.5	38	88.7	53,552	146	2,261,912	117	42	83.4
ごぼう	3,776	105.4	273,334	187.4	72	177.8	29,840	98	1,669,462	127	56	128.1
えんどう	131	252.3	55,036	527.5	420	209.1	1,675	231	459,066	304	274	123.0
アスパラガス	1,610	126.9	930,707	126.8	578	99.9	10,019	118	5,046,980	111	504	90.7
まつたけ	577	169.1	1,807,558	86.6	3,135	51.2	1,772	121	5,569,201	96	3,142	78.9
しいたけ	443	112.3	116,014	118.0	262	105.0	4,072	124	1,032,972	133	254	108.2
かぼちゃ	1,664	1382.8	100,404	978.1	60	70.7	82,961	101	5,588,502	117	67	111.0
果実(生鮮・乾燥)	147,767	102.9	17,743,130	100.6	120	97.8	1,612,713	93	189,597,802	97	118	105.3
バナナ	95,236	95.9	6,026,471	93.2	63	97.1	936,183	87	64,812,683	79	69	94.0
パイナップル	12,209	109.9	733,937	103.0	60	93.7	116,575	97	7,342,947	95	63	100.4
レモン	2,502	47.5	304,334	45.1	122	94.9	41,907	93	5,276,976	104	126	108.9
オレンジ	8,977	198.7	1,032,570	221.1	115	111.2	103,463	115	10,266,022	118	99	101.9
グレープフルーツ	4,413	453.8	382,548	422.4	87	93.1	151,692	95	13,854,742	101	91	103.3
メロン	2,908	188.4	236,031	177.0	81	93.9	25,888	99	2,554,422	94	99	93.7
ぶどう	1,127	389.0	281,024	368.8	249	94.8	9,160	156	1,635,175	169	179	96.4
キウイ	4,961	143.2	2,841,888	104.3	573	72.9	61,414	107	20,356,314	108	331	98.7
いちご	746	115.4	592,659	103.9	794	90.0	2,612	99	2,113,839	91	809	91.0
切花(生鮮・乾燥)	3,709	108.1	2,832,314	118.4	764	109.5	34,934	113	25,788,191	113	738	100.5
鳥獣肉類	134,767	97.7	55,966,946	99.0	415	101.4	1,451,834	108	616,197,952	107	424	99.7
牛肉(くず肉含む)	33,580	68.2	13,461,998	73.9	401	108.3	403,209	100	163,368,042	105	405	104.7
豚肉(くず肉含む)	56,232	101.5	29,504,664	101.8	525	100.3	632,460	107	331,732,504	107	525	100.1
鶏肉	38,481	144.5	9,086,457	175.8	236	121.7	347,758	127	78,893,197	119	227	97.4
水産物(生鮮・冷蔵・冷凍)	158,222	105.1	82,549,298	107.3	522	102.1	1,444,944	140	752,299,929	100	521	99.9
まぐろ類	20,642	117.1	12,706,408	94.8	616	81.0	180,314	102	138,835,362	89	770	89.1
さば・さんま・あじ・いわし	13,258	283.2	2,411,231	406.1	182	143.4	70,891	89	11,669,873	87	165	95.4

## 2 輸出実績

果実(生鮮・乾燥)	3,691	97.5	1,088,052	106.0	295	108.6	19,332	107	6,487,544	113	336	113.8
うんしゅうみかん	920	100.0	77,605	96.7	84	96.8	1,166	112	198,944	116	171	127.1
りんご	1,329	83.2	459,549	92.9	346	111.6	14,834	117	4,239,605	133	286	110.4
なし	82	122.8	44,188	181.3	542	147.6	623	39	317,712	49	510	126.4
野菜(生鮮・冷蔵・乾燥)	-	-	278,655	69.9	-	-	-	-	2,316,487	91	-	-
緑茶	217	114.9	392,983	117.2	1,807	101.9	1,817	113	3,493,676	124	1,923	110.0

資料 農林水産省大臣官房統計部「農林水産物輸出入情報」

# 関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数 (全国 平成17年 = 100)				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	21年平均	100.3	103.3	98.9	105.6	104.4
	22年 6月	99.7	111.6	119.4	103.5	102.3
	7月	99.2	107.8	100.4	104.0	102.2
	8月	99.5	114.3	114.0	103.6	103.3
	9月	99.8	123.2	122.8	103.4	104.2
	10月	100.2	127.5	121.8	103.4	101.7
愛 知 県	21年平均	100.9	100.6	100.0	102.4	103.6
	22年 6月	99.5	107.4	114.0	101.3	102.9
	7月	99.1	101.8	98.4	100.1	97.5
	8月	99.6	109.7	111.3	98.8	99.0
	9月	99.7	116.7	114.8	100.7	102.1
	10月	99.8	118.7	109.9	100.2	97.0

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	21年平均	95.7	98.0	100.7	91.5	98.5
	22年 6月	99.0	97.1	111.4	114.3	102.0
	7月	99.1	97.1	105.8	132.3	101.0
	8月	98.6	96.4	102.8	121.5	99.2
	9月	106.3	93.0	129.3	119.3	100.6
	10月	103.3	89.8	128.6	114.0	100.0

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」  
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種、「コシ加」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
21年平均	2,236	158	172	603	419	313	142	314	203	510	615	201	447
22年 6月	2,003	170	206	750	381	366	152	322	230	458	504	179	504
7月	1,982	155	176	717	309	382	168	391	217	469	524	175	560
8月	1,937	168	194	745	496	377	183	442	218	473	592	139	-
9月	1,941	140	245	791	485	322	175	428	226	536	846	166	-
10月	1,895	176	209	845	711	311	179	379	238	567	882	172	-
品目 単位 年月	みかん	グレープフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウイフルーツ	緑茶(せん茶)	カーネーション	きく	バラ	豚肉(ロース)	牛肉(ロース)	まぐろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1本	100g	1本	100g	100g	100g	100g
21年平均	604	312	382	143	254	682	603	162	166	326	223	752	479
22年 6月	-	267	342	-	221	767	560	145	165	295	218	710	459
7月	-	285	349	-	215	769	569	144	176	288	212	731	420
8月	-	284	381	-	219	721	569	157	186	289	209	724	409
9月	906	291	365	-	234	735	563	154	178	288	215	742	412
10月	547	321	402	-	220	762	559	155	167	296	225	723	403

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 451  
平成23年1月発行  
農林水産部食育推進課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6417